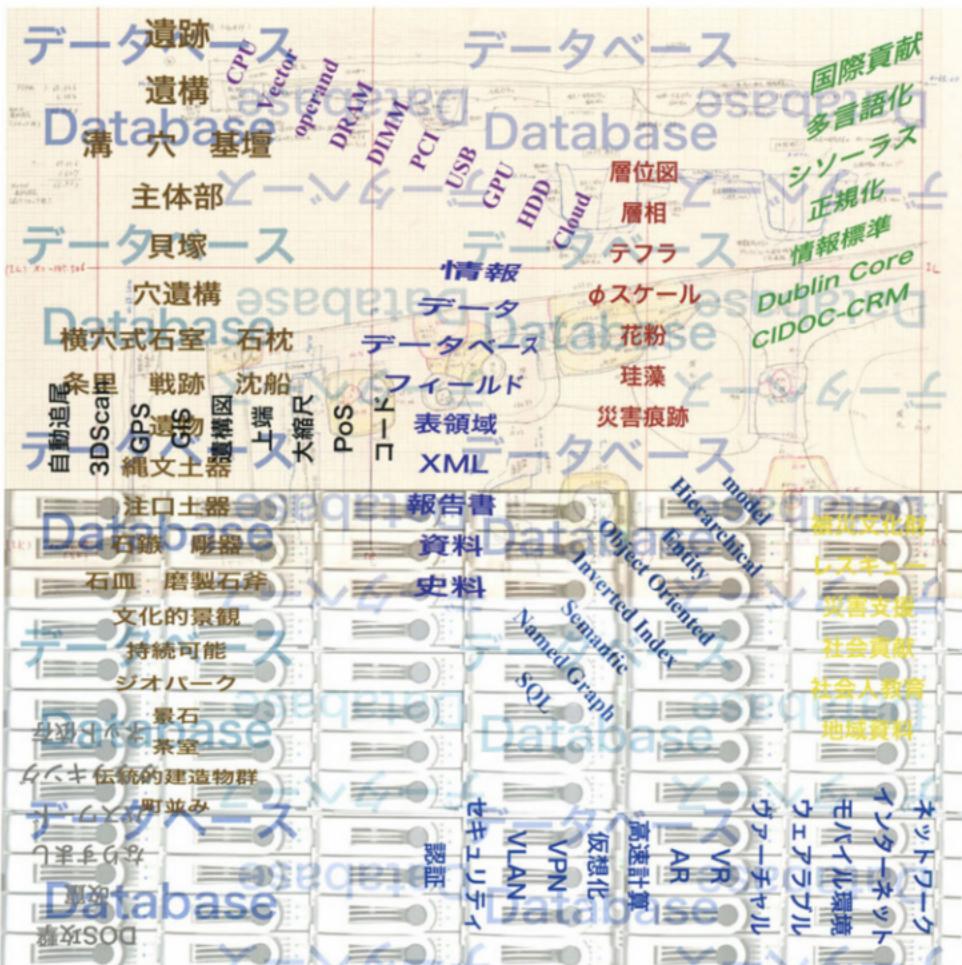


埋蔵文化財ニュース

〒630-8577
奈良市佐紀町247番1
TEL 0742-30-6733
FAX 0742-30-6841

奈良文化財研究所が提供しているデータベース



奈良文化財研究所が提供している データベース

はじめに

奈良文化財研究所は、調査・研究の成果を社会に還元する一環として、各種データベースの公開を長年に渡って行っている。今回、それぞれのデータベースの特徴を詳しく知りたい方、研究者の方々の調査・研究のみならず、文化財に関する調べもの一般にも広く活用していただけるよう、案内の書としてこの埋蔵文化財ニュースを作成した。本稿の文責は、企画調整部文化情報研究室にある。

データベース一覧

奈良文化財研究所のデータベースへのアクセスは、研究所のホームページ (<http://www.nabunken.go.jp>) から、画面右側にあるデータベースのボタンをクリックし、それぞれのリンクを辿ってほしい。

2014年3月現在、奈良文化財研究所のデータベースとして掲載されているものは、以下の通りである。

- ・木簡データベース
- ・木簡画像データベース [木簡字典] (日・韓・中・英)
- ・木簡画像データベース・木簡字典/電子くずし字典データベース連携検索
- ・木簡人名データベース
- ・全国木簡出土遺跡・報告書データベース
- ・墨書き器画像データベース [墨書き器字典]
- ・遺跡データベース
- ・地方官衙関係遺跡データベース
- ・古代寺院遺跡データベース
- ・官衙関係遺跡整備データベース
- ・遺跡の茶道保護データベース
- ・発掘遺物データベース
- ・Archaeologically Excavated Japanese Gardens
- ・Japanese Garden Dictionary
- ・所蔵図書データベース
- ・報告書付録データベース
- ・薬師寺典籍文書データベース
- ・大宮家文章データベース
- ・平城京出土陶器データベース
- ・学術情報リポジトリ
- ・木簡ひろば

これらのデータベースは、いくつかのグループに分けて考えることができる。

出土文字資料関連のデータベース

出土文字資料に関するデータベースには、木簡データベース関係の複数のデータベースと、墨書き器画像データベースがある。木簡データベースファミリーとも言うべき一群は、

- ・木簡データベース
- ・木簡画像データベース [木簡字典]
- ・木簡画像データベース・木簡字典/電子くずし字典データベース連携検索
- ・木簡人名データベース
- ・全国木簡出土遺跡・報告書データベース
- ・木簡ひろば

からなる。

木簡データベースは、1点の木簡を1レコードとするデータベースで、木簡が木製の遺物であるところに着目していると言うこともできる。これに対し、木簡字典は、ひとつひとつの文字を対象としたデータベースである。文字を対象とすることで、同じように文字ひとつひとつを対象としている東京大学史料編纂所の電子くずし字典データベースと連携検索を実現している。

木簡に現れる人名に注目したのが、木簡人名データベースで、木簡が出土した遺跡や、木簡に関する記述がある発掘調査報告書を集めたものが全国木簡出土遺跡・報告書データベースとなる。

また、これらを統合し、開発情報と合わせて提供するポータルサイトとして、木簡ひろばがある。専門家でない人でも、順を追って学習できるように工夫されている。

このように木簡に関するデータベースは互いに関連したひとつの群をしており、それぞれをつなげて有効活用していただくことにより、より深くまた広く調査・研究に資るものとなっている。

墨書き器画像データベースは、墨書き器字典という別称が示すように木簡字典の考え方を、文字が記された土器に関するデータベースに応用したものである。日本の環境では、漆紙文書のような例外はあるものの、通常、遺跡から文字を記した紙製遺物が出土すること少ないため、木簡関係と墨書き器関係で出土文字資料の大半を網羅している。

遺跡に関するデータベース

遺跡に関するデータベースとして、遺跡データベース、地方官衙関係遺跡データベース、古代寺院遺跡データベースの3つがあ

る。後述する官衙関係遺跡整備データベースも官衙に関するデータベースだが、遺跡整理に重点をおいたデータベースなので、遺跡関係のデータベースとは分けて考える。

遺跡データベースは、全国を対象に、遺跡として報告されたすべてを対象として、いすゞ出版情報の百貨店を目指して整備しているものである。

地方官衙関係遺跡データベースは、遺跡の中で地方官衙に比定されたり、その可能性があると報告されている遺跡について、特に遺物構造の詳しい情報を提供する。

古代寺院遺跡データベースは、遺跡の中で古代の寺院に比定されたり、その可能性があると報告されている遺跡について、特に建物遺構の詳細情報を示す。

遺跡整備に関するデータベース

遺跡整理に関するデータベースには、官衙関係遺跡整備データベースと遺跡の斜面保護データベースがある。

官衙関係の遺跡についてその整備手法などを詳細に述べるもののが官衙関係遺跡整備データベースで、傾斜地にある遺跡の斜面に対しどのような整備手法を用いているかをデータベース化したもののが、遺跡の斜面保護データベースとなる。

庭園に関するデータベース

庭園も建物と同じく、古い時代のもの(現在まで庭園としての機能を保ったままで残存しているよりも、埋没していく発掘調査によって発見される例が多い)。発掘調査された庭園に関するデータベースが、発掘庭園データベースであり、その内容を英訳したもののが、*Archaeologically Excavated Japanese Gardens*である。この英語版データベースの理解を深めるために専用語を解説したのが、*Japanese Garden Dictionary*となる。

文献や史料のデータベース

奈良文化出版研究所は、調査・研究業務に関連する図書を所蔵し、広く一般の方々の閲覧にも供している。その助けとするために、研究所に来られなくともインターネットを通じて蔵書検索が可能となるように提供しているのが、所蔵図書データベースである。

遺跡の発掘調査報告書は冊数も多く、また部厚いものが多くために、その内容を簡便に知る方法が求められていた。こういった需要に答える形で整備されてきているのが、発掘調査報告書抄録である。奈良文化出版研究所では、諸機関の協力を得て発掘調査報告書抄録をデータベース化して提供している。

奈良文化出版研究所はその設立当初より、古代社寺の研究を行っており、その中で多数の文書調査を行ってきている。それらの成果の一部をデータベース化したものが、薬師寺典籍文書データベースと大宮家文書データベースである。

遺物のデータベース

遺物のデータベースは本筋を除けば、公開できる段階に達しているものは多くはない。これは、出土遺物に関してはます整理作業の管理をかねるデータベースが作られるために、当事者以外には必要ない情報が多いためである。遺物の種類ごとに、まとまった情報が整備されたものから、報告書を作成したりデータベースの再構築を行っている。平城京出土陶器データベースは、遺物データベースの公開に先駆をつけるものと言えるだろう。

奈良文化出版研究所公開データベースの今後

公開データベースの整備は、研究成果公開の有効手段として、今後とも継続するとともに、研究支援を目的として新たにデータベース作成も企画中である。

現在、公開に向けて準備を進めているデータベースのひとつとして、考古学関連論文情報補完データベースがある。考古学関係の雑誌篇について、著名な物は、国立情報学研究所の学術論文に関するデータベースであるCINiiで検索することが可能である。しかし、地方の雑誌や個人誌に近いもの等、現存するインターネットのデータベースで検索できない雑誌も多く存在している。そこで、考古学関連雑誌と判断した雑誌で、奈良文化出版研究所が所蔵している雑誌について、記載されている論文に関するデータベースを作成し、既存の論文データベースを補完する情報を提供しようというものが、考古学関連論文情報補完データベースである。

公開データベースの数が増えるにつれて、調べものをするときにどのデータベースで検索すればよいかわからぬ場合が増えてくると予想される。共通検索の手法が有益と考える。

注

次ページ以下で個々のデータベースについて説明する際に、データベースフィールド名は【】に入れて示した。

木簡データベース

はじめに

木簡データベースの開発は古く、サーバーとして国立民族学博物館の汎用機を利用して1980年代に始まっている。現在は、ブラウザから利用可能な形で、奈良文化財研究所に設置しているサーバーから情報発信している。

木簡データベースにアクセスすると説明のページが表示される。このページで述べている通り、木簡データベースは全国で出土した木簡の中で、叢文の内容が確定して報告書が刊行されたり、木簡学会編の『木簡研究』の場で報告された木簡を公開対象としている。

遺跡の発掘調査で出土した木簡は、たいてい脆弱な遺物なので、その水洗いもしくは使う。木簡を再利用するために削った肩に墨の痕跡がある場合、それらを探し出し拾い上げる作業には時間がかかる。その後の記録や調査・研究にも時間が要るので、公開データベースにまだ載せられていない木簡も多数存在している。

2014年3月の時点で、内部で業務用に用いている木簡データベースに登録している木簡は、155,031点あり、公開している49,389点は、その32%にあたる。未公開の資料には、小さな削り屑で文字を判読できない資料が多数含まれている。

ページとフィールドの構成

木簡データベースでは、最初の説明ページから分岐して、次のページにアクセスできる。

- ・検索
- ・利用方法
- ・凡例
- ・更新履歴

まず、利用方法のページを読み、使い方を理解することが肝要である。凡例のページでは、木簡データベースの個々のフィールドについて解説している。フィールドの特性を理解して正しく利用していただく上で重要な情報を掲載している。

データベースフィールドは、

- 【遺跡名】
- 【発掘次数】
- 【所在地】
- 【調査主体】
- 【地区名】
- 【遺構番号】

【本文】

【寸法】

【型式番号】

【形状】

【樹種】

【木取り】

【内容分類】

【出典】

【木簡番号】

【和題】

【西題】

【国際語題】

【人名】

から成る。

検索上の特徴

検索はそれぞれのフィールドについて「包含」「先頭一致」「完全一致」の各条件を指定できる。

データ文字列の中に検索文字列が含まれている場合=包含

データの文字列が検索文字列で始まる場合=先頭一致

データの文字列と検索文字列が完全に等しい場合=完全一致となる。

ただ、検索には文字コードが異なる文字であっても同一視する場合や、特定の文字を検索対象から除外するといった機能が付加されている場合があるので注意が必要である。

表紙ページの[おかげ]2001.5.31に記載しているように、木簡データベースでは、読み切っていない文字（□〔カ〕として表示）も前後の文字と通じて検索できるようになっている。

例えば「式部省」で検索すると、「式部省」という本文の他、「□〔式カ〕部省」や「式□□〔部省カ〕」なども検索可能である。但し、検索結果の一括表示の画面では、それらも全て「式部省」と表示される。また、例えば「式□□□□□部省」というような木簡があった場合にも、「式部省」で検索されることになるので、注意が必要である。本文を個々の木簡の詳細データで確認し、さらに出典にあたっていただきたい。

このように、出土文字資料である木簡の特性に配慮し、実際の検索において必要となる機能を特に盛り込んでいるところに、このデータベースの特色のひとつがある。

実際の検索例で説明する。検索画面で、「吉備」と入力すると、検索対象の全フィールドに対する包含検索が行われ、結果が 20

点ずつの一覧表示される(図1)。表示されるフィールドは、【連番】【本文】KWIC【型式番号】【出版】【題名】である。

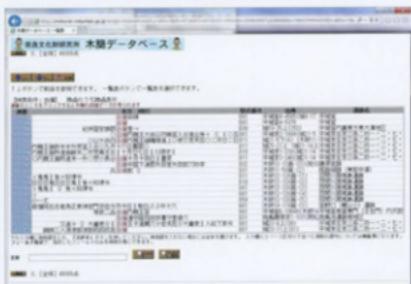


図1 木簡データベースでの検索結果一覧表示

一覧表示では、本文は KWIC 表示される。KWIC とは、Key Word In Context の略で、検索語を文脈の中でとらえて比較しやすいように配置して表示するものである。文脈の中でとらえることにより、検索語の意味を的確に把握することができる。「吉備」の例では、人名として使われている場合、地名として使われている場合があることがよくわかる。

また、この例では、本文に「吉備」の語句がない木簡も表示されている。これは、検索対象の全フィールドに対する検索を実行しているので、本文以外のフィールドに「吉備」の語が入力されているためにヒットしているものである。

・内親王御作米半升受算入女〇〇・九月十六日豐國〇〇
の木簡では、【人名】のフィールドに「内親王」が吉備内親王であることが示されている。

詳細な情報を見たい木簡に対しては、【連番】の部分をクリックすることで、詳細画面が表示される。先ほどの木簡についてその詳細情報を表示すると図2のようになる。

一覧表示では示されていないフィールドも全部、その内容を見ることができる。さらに、すべての木簡についてではないものの、写真も添付されている。文字情報と共に表示されているのは、索引としての画像であり、そこをクリックすることで、より詳細な画像を表示可能である。

木簡に記されている文字は、一部が欠損していたり、木の表面状態が良くななどの理由で、読みが困難なことがしばしばある。本文データとして挙げられている文字の読みと写真とを比較検討することが可能となっている。

図2 木簡データベース詳細画面

フィールドの中で、文字資料の内容理解を助けるため注目すべきフィールドは次の4つのフィールドである。

【右側】

【西側】

【国際開闢】

【人名】

これらは、先ほど「吉備」で検索した結果の説明の中で触れたように、木簡の本文に記載されている文字列そのものだけではなくて、その表現の意味するところを解釈した成果を盛り込んでいるところに特徴がある。

【国際開闢】のフィールドを活用して、木簡の本文に「參河国芳園部」とある木簡について、国郡名を「參河国幡豆郡」として検索できるようにしている。標準的な表記での検索を可能することで、表記の握りによって検索でヒットしなくなることを防いでいる。

【和暦】のフィールドでは、想定される年号を記載している。例えば、本文に「・廿九日壬申〇〇→」というデータがある木簡では、この日付と干支の組み合わせで、可能性のある年号の候補を記載している。

・御統10年1月29日・大宝1年2月29日・大宝1年4月29日・慶雲3年3月29日)

と記して検索に供している。

ある情報を、知識ベースに照らして調整し、その成果を再び検索の場に持ち込むことで利用者が利用しやすいようになっていく。

木簡画像データベース〔木簡字典〕

はじめに

木簡字典は木簡の文字ひとつひとつを対象としたデータベースであり、「木簡字典とは」のところで詳しく述べてあるように、複数の科学研究費補助金による研究の成果を含んでいる。

2014年3月現在で、文字画像数は66,000点を越えている。これらは飛鳥・奈良時代を中心とする時代に書かれた文字に関する情報として、文字の変遷などを探る基礎となるものである。

検索上の特徴

このデータベースにおける検索上の特徴は、対象文字をいろいろな画像で示していることである。

最大の場合、カラー画像、モノクロ画像、赤外画像、記帳ノートという4種類の画像が、同じ文字もしくは文字列に対して表示される。さらに、カラー画像ならカラー画像が、複数種類提示されることもある。

例として、ある木簡の本文の内、「○三家人口麻呂調／○塩参斗」で示される部分を掲げる。ここでは、実際の検索結果表示の画面を整形して示している。

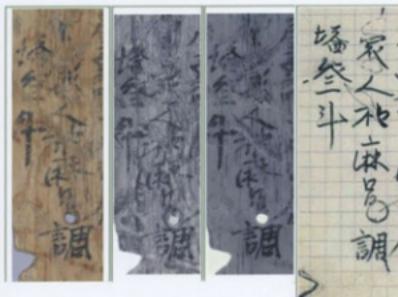


図3 木簡字典での各種画像表示

左端はカラー写真。左から2番目がモノクロ写真の画像、3番目が赤外撮影の画像である。赤外画像で見ると、墨の黒が強調されるとともに、木目の筋がモノクロ画像よりも抑えられていることが分かる。このように、カラー・モノクロ・赤外という特性を考慮して比較検討できる。

また、右端の画像は、記帳ノートの画像である。記帳ノートは、考古遺物の実測図に近いイメージで考えていただければよいと思う。研究者が木簡を観察し、墨痕を解釈しながら書き留めていくもので、木簡上の文字に対する最初の観察結果であるとともに、

筆遣いのように实物をじっくりと観察しなければ得られない情報まで盛り込んだ記録であるとも言うことができる。

木簡上の位置情報

木簡字典で木簡の詳細画像を表示すると、画像の右側にコントロール用のボタンが表示される(図4)。「ご利用方法」のところで説明されているように、画像種類の切り替え、上下左右に動かす、あるいは拡大・縮小を指示できる。

また、文字の画像の上にマウスのポインタを合わせると、その文字を軽読した結果の文字が示される。これは、ポインタ近くの文字を表示するもので、複数文字を表示することもある。木簡の中での各文字の位置が座標として記録され、GIS(地理情報システム)で扱う情報のように処理しているので、多くの発展が期待される取り扱い手法である。



図4 木簡字典での拡大画面

詳細情報との連携

木簡字典では、文字で検索した後、その木簡に関する詳細情報を表示させることができる。「詳細」で表示される内容は、その文字が書かれている木簡について検索した、木簡データベースの内容と同じである。

また、「木簡の形で発掘場所、木簡の内容で検索する」のボタンをクリックすることで、細かな条件を付加した検索を行うことができる。これは、木簡の形、出土地域名、木簡の内容、地域で選ぶ、の各カテゴリーあるいはそれらの組み合わせで指定するもので、木簡データベースにおけるフィールド指定検索と同等である。ただし、ここでは、説明の欄を添えたり、地図上で指定を可能にしたりと、わかりやすいユーザーインターフェイスを実現している。



図5 木簡字典しおり込み検索の条件指定、木簡の形



図6 木簡字典しおり込み検索の条件指定、地域で選ぶ

多言語対応

木簡字典は、検索画面等の説明を日本語だけではなく、韓国語、中国語、英語によっても提供するサービスを開始した。データベース中の説明文章、クリックするためのボタンに表示されている文字、図のタイトル、フィールドの名称などが翻訳されている。

以下、フィールド名の対応を日本語、韓国語、中国語、英語の順で示す。

【木簡番号】	【목판번호】	【木簡編号】	【Accession number】
【本文】	【본문】	【正文】	【Text】
【型式番号】	【형식번호】	【外形編号】	【Form No.】
【遺跡名】	【유적명】	【遺迹名称】	【Site Name】
【調査主体】	【발굴주체】	【調査主体】	【Investigating Party】
【発掘次数】	【발굴차수】	【发掘次数】	【Excavation No.】
【地区名】	【지구명】	【地区名称】	【Excavation Precinct】
【遺構番号】	【유구번호】	【遺構編号】	【Feature No.】

【寸法(ミリ)】 【ヨリ(밀리미터)】 【尺寸(毫米)】

【Description of Shape(mm)】

【所在地】 【소재지】 【所在地】 【Location】

【内容分類】 【내용분류】 【内容分类】 【Tablet Type】

【出典】 【출전】 【出典】

【Bibliographic Reference(s)】

【国都郷里】 【국도읍리】 [國都鄉里] 【国都郷里】

【Ancient Province/City/Village/Hamlet Name】

【人名】 【인명】 【人名】 【Personal Name】

【和暦】 【일본연호】 【日本紀年】 [Japanese Era Name]

【西暦】 【서기】 【公历】 【Western Calendar】

【形状】 【형태】 【形状】 【Wooden Tablet Shapes】

【木取り】 【나무 칠단방향】 【木料】 【Grain Direction】

【樹種】 【나무 종류】 【樹种】 【Tree Species】

【木簡説明】 【목간설명】 【木简说明】 [Explanation for this item]

データの中身は、日本語のままである。【本文】情報のように翻訳不可能なデータもあるが、一部の情報は翻訳可能である。

多言語対応化する時どこまでを訳すのかには、いろいろなやり方や立場があり、木簡字典はそのひとつの例を示していると考える。後に述べる Archaeologically Excavated Japanese Gardens と比較されたい。

木簡人名データベース

はじめに

木簡人名データベースは、タイトル画面と「開発の趣意」に説明があるように、日本学術振興会科学的研究費補助企画研究費「目録学の構築と古典学の再生—天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明—」(平成19年度から23年度、研究代表者：東京大学史料編纂所田島公教授)の一環として、東京大学史料編纂所と奈良文化財研究所が共同で開発したものである。

検索の実際

検索画面では、2種類の指定が可能である。検索文字の欄では、人名を指定する。

奈良文化財研究所 木簡人名データベース

検索文字: 検索したい人名(漢字で一部でも可)を入力します。標準化した人名と木簡の表記による検索ができます。
人名のみ(平仮名で、一部でも可)からでも検索できます。標準化した人名のよみもできます。
※スペース区切りで複数の検索文字を入力するとOR検索をします。
年代: 年代を指定します。年号を複数指定した場合、連続年代順によって付与された年号が選択されます。
※検索文字と年代を両方指定した場合、AND検索になります。
※検索方法のページをご参照ください。

図7 木簡人名データベース検索画面

ここでの「人名」は、木簡上の表記だけではなく、標準化されたものも指定可能となっている。人の名前が時期によって変更となることがある。改姓や改名を剥離することが可能であれば、最もその人をよく代表している名前を標準化した人名とすることができる。もちろん、実際に断片的な情報として立ち現れる木簡上の人名に対して個々人の同定をしていくことは困難な作業である。

この標準化という考え方とは、木簡人名に限らず、データベースを構築していく上でとても重要な考え方である。

一覧画面は、次のフィールドからなる。

【通し番号】

(これは、その都度生成されるもので本来のフィールドではない)

【詳細】のボタン

【人名】

【よみ】

【西暦】

【詳細】ボタンを押すと

トップに【人名】【よみ】が挿入され、次いで

【通し番号】

(これは、その都度生成されるもので本来のフィールドではない)

【和暦・西暦】

【説明】

【位階】

【木簡表記】

【連携年代観】

【木簡情報】

の各フィールドを表示する。

【説明】の部分が、その木簡についての説明と、その人物についての説明からなる。人についての説明は重複記載される。

例えば、「吉備」と検索すると、図8のように、人名が、

吉備 1

吉備 2

吉備内親王 0

吉備命婦 0

吉備朝臣泉 0

小長谷吉備 0

矢田部吉備 0

秦造吉備人 0

と表現される。

奈良文化財研究所 木簡人名データベース

ID	人名	よみ	西暦
1	吉備 1	きのり	676～770
2	吉備 2	きのり	710～717
3	吉備内親王 0	きののしんのう	710～715
4	吉備命婦 0	きののめいふ	710～715
5	吉備朝臣泉 0	きののせんじんせん	710～715
6	小長谷吉備 0	こながたけよし	710～715
7	矢田部吉備 0	やたべよし	710～715
8	秦造吉備人 0	さとうのやつるひのしゆ	-

図8 木簡人名データベースで「吉備」を検索

これら8人はそれぞれ別人と考えられる8名ということになる。すなわち、「吉備」とだけ表現されている人物もそれぞれ別人と考えられることを表している。吉備1は、765から770年ころの木簡での記述。吉備2は、710から717年ころの木簡での記述と判断されているためである。

木簡に年号が書かれていることは多くなく、完全な形で残されていることはさらに少ない。そこで、木簡の本文のみで年代を決定していくのに上限界がある。出土遺物の検討や其作遺物から、年

代の幅を狭めていかなくてはならない。直系の証拠と間接の証拠を並べて検討できることも、この木簡人名データベースの特徴である。

史料に登場するような著名な人を木簡の記載の中に見つける喜びもあれば、いっぽう普通の人の日常的な行動に接する楽しみもある。従来の人名事典に現れてこない人物を明らかにすることができる資料として、木簡がいかに重要であるかがよくわかる。

先の「吉備」で検索して得た8名の中から、ひとりを選ぶと下記のような詳細画面を得る。

奈良文化財研究所 木簡人名データベース

古墳名	古跡名	文献名	木簡登記	木簡登録	人間登録
1. 10月10日-10月14日 内閣文庫(東京) 大蔵省(東京)	墓(1号)	1号	1号	1号	1号

図9 木簡人名データベース詳細画面

ある特定の人物に関する木簡が複数あるれば、複数の木簡に対する情報が表示される。吉備内親王では10件が表示される。

それぞれの木簡についての情報を得たい場合は、右端の欄にある「木簡」のボタンをクリックすることで、木簡ごとの詳細情報をへとリンクしている。また、その先、木簡字典へもリンクしていくので、関連する検索を統合して行うことができる構造となっている。

人名のシソーラス

先に少し述べたが、人名に関するデータベースを作成することは、様々な分野で取り組まれている。人名に関するデータベースということでの共通性と、それぞれが対象とする人名の性質の違いによる特性とがある。著名なものに、ゲティ財团による芸術家リスト **ULAN** がある。

基本的に、注意すべき点は、

- ・表記の揺れを考慮して、人名表記の標準形を決める。
- ・人名の変化を追跡する。
- ・ベンチマークの上のような異名を検討する。
- ・同時同名の別人物に注意する。
- ・ひとつの人名が複数の人からなるグループにつけられている場合に留意する。

・架空や想像上の人物、人間ではないものにつけられた人名かどうかを検討する。

これらの注意点は、資料の少ない古代の人名に適用するには無理がある場合が多いと考えられるが、常に注意が必要である。木簡では、人名が肩書との組み合わせや肩書だけで表記されていることが多い、木簡人名データベースはそれに配慮したデータ入力を実行している。

全国木簡出土遺跡・報告書データベース

はじめに

全国木簡出土遺跡・報告書データベースは、木簡に関するデータベース群の一角を成す。

このデータベースは、全国の木簡が出土した遺跡を一覧し、それに関する報告書等の情報を集成するもので、『『理蔵文化財ニュース』114 全国木簡出土遺跡・報告書特集』(奈良文化財研究所理蔵文化財センター、2004)の成果をデータベース化したもののが元になっている。その後、データベースへのデータ追加と更新を行っている。

冊子体としても内容を更新した『『理蔵文化財ニュース』154 全国木簡出土遺跡・報告書特集』(奈良文化財研究所理蔵文化財センター、2014)が刊行され、データベースへの反映が遅れている。

木簡の持つ目的・外的な属性を、多角的に分析するにあたっては、基礎資料である遺跡情報や文献情報が欠かせない。そのための資料として整備されているのが、この全国木簡出土遺跡・報告書データベースである。

2014年3月現在、収録データは、発掘調査件数2,418件、遺跡数1,130件、木簡出土点数341,335件となっている。

フィールド構成

ひとつ目のレコードは、木簡が出土している、ひとつの遺跡なし、ひとつ目の発掘調査次数の調査を単位としている。出土した木簡の点数に関するフィールドを参照すれば、遺跡や調査による出土数の割りが大きいことがよくわかる。

② 奈良文化財研究所 全国木簡出土遺跡・報告書データベース	
2. [全体] 2418件	3. [平成] 16件
	↑ボタンでカードモードになります。↓ボタンで一覧表に戻ります。
<p>件名 平城宮跡(241次)酒呑御跡 いせき名 ハイヒヨウキヨウ 遺跡ID 29201002 古文書コード 29201 酒呑御 奈良県奈良市 古文書種別 古代官路-官路 発掘年月 93.4-93.6 発掘機関 奈良国立文化財研究所 報告書等文獻 文芸研1993年度平城宮跡発掘調査部発掘調査報告書1994年 文芸研「奈良国立文化財研究所年報」1994年 文芸研「平城宮跡発掘調査出土木簡調査報告書」1994年 寺崎保広「奈良・平城宮跡」(木簡研究)16, 1994年 関係文献 著者 172</p>	

【遺跡データベース】へ 【木簡字典】へ

図10 全国木簡出土遺跡・報告書データベース詳細画面

全体のフィールド構成は、次の通りである。

【遺跡名】

【いせきめい】

【遺跡ID】

【古文書コード】

【所在地】

【遺跡の種類】

【発掘年月】

【出土点数】

【発掘期間】

【報告書等文獻】

【関係文献】

これらすべてのフィールドについて、個別のあるいは複数づけでの検索を行うことが可能であるとともに、フィールドを指定しない全文検索が用意されている。

また、データの記述についての統一も図られている。例えば【所在地】の高齢士すべて、都道府県名から始まるようになっているので、フィールドを指定し、「大阪府」で検索すれば、大阪府内の木簡出土遺跡（発掘調査）の一覧を得ることができる。

さらに、検索結果をテキストファイルで取り出すことも可能なので、ダウンロードしたデータを容易に活用ができる便利である。

他のデータベースへのリンク

木簡が出土した遺跡・調査ごとの文献情報が得られれば、次に参照することが多いのは、当然、木簡そのものの情報や木簡の文字の情報であろう。当データベースには、そのためのリンクとして木簡データベースと木簡字典へのリンクがつけられている。

データベースの統合的な運用と活用という観点からは、今後、全国木簡出土遺跡・報告書データベースから、遺跡データベースや報告書抄録データベースの関連データへの有機的なリンク付けを図ることが必要となってくると考えている。

墨書土器画像データベース【墨書土器字典】

はじめに

出土文字資料としては、出土点数もひとつの遺物に書かれていくる文字数に比べても、木簡が最大の資料である。しかし、木簡は木製品なので、木の保存に適した環境でなければ残らない。これに対し、墨書土器は、文字が土器の上に書かれているために、木製品よりも残りやすいという特徴がある。文字を書く契機は木簡と墨書土器では異なり、文字数や内容等も相違すると考えられ、この2種類の資料は相互に補完し合う存在でもある。そこで、出土文字資料を総合的に扱うために、墨書土器画像データベースが構築された。



図11 墨書土器字典タイトル画面

「墨書土器字典」とは、のところに書かれているように、このデータベースは科学研究費による研究成果を盛り込んでいるとともに、多くの外部の方々の協力により構築しているものである。

フィールドの構成と画像の提供方法

フィールド構成は次の通りである。

【集成番号】

【本文】

【記載方法】

【遺跡名】

【調査主体】

【発掘次数】

【地区名】

【遺物番号】

【所在地】

【内容分類】

【出典】

【国際部屋】

【人名】

【地図】

【西暦】

【土器の種類】

【器種】

【部位】

出土文字資料のデータベースなので、木簡データベースや木簡字典を踏まえたフィールド構成となっている。【国際部屋】【人名】

【和暦】【西暦】の部分の説明は木簡字典と同様である。

また、画像については、カラー画像、モノクロ画像、赤外画像、実測図が用意されている。木簡字典では記帳ノートであった部分が、実測図となっている。資料の性格が異なるので、同じ感光剤の写真が複数撮影されていることが多い。下に一例を掲げる。詳細表示の一部を構成し直して示した。

以下の画像をクリックすると拡大表示できます。



図12 墨書土器の画像比較

このように、同一箇所を複数の画像で検討できるのも、木簡字典と同様の機能である。実測図画像においては、土器破片の接合部分に表面が剥離した痕跡を認めて図に表現している。

拡大画像の中を上下左右に移動しながら観察できる機能も木簡字典と同様に用意されている。同じくマウスのポインタの位置に軸を表示する機能も実現している。



図13 墨書土器の拡大画像

木簡ひろば

木簡ひろばは、「木簡に関する総合情報サイト」として作られたもので、次のコーナーから成る。

- ・展示室
- ・資料室
- ・研究室
- ・フォーラム
- ・キッズコーナー
- ・その他リンク

展示室

展示室で提供しているのは、以下のページである。

地下の正倉院展 平城宮跡資料館で 2007 年から毎年開催している「地下の正倉院展」に関する資料。特に 2007 年と 2013 年の展覧会について、解説シートをダウンロードすることも可能。

木簡って何? 「木簡とは」と「木簡の理由」のページで、木簡について簡潔に説明している。

木簡ワールドへようこそ 「木簡ワールドへの招待」、「明日の物語」、「イギリスの木簡学者」「くつつく文字」「袋の中に衣が入ったような『袋』の字、漢字の部品の場所とゲーム」「古代木簡人名ツアーア（人名がよく書かれる木簡、人名に使われる漢字）」「木簡に出てくる食べ物」「木簡に使われている漢字」からなり、木簡にまつわる軽い富強を公開している。

木簡関係用語集 木簡や木簡研究に関連した用語を集めた用語集で、現在 151 件の用語を納める。

天平ひとの声を聞く 地下の正倉院・平城宮木簡のすべて(2010 特別展) 平城宮跡資料館での特別展に関する説明。

木簡関係情報箱 出版物発行情報として、報告書を中心に基本となる 85 点をまとめ提示している。また、さらに出版年ごとに、木簡と関連する一般書 59 点を一覧にしており、1991 年まで遡ることができる。

資料室

資料室では、次の関連データベースについて簡単に紹介した上で、各データベースへのリンクを貼っている。それらは、

- ・木簡データベース
- ・木簡字典
- ・木簡出土遺跡・報告書データベース
- ・木簡字典 電子くずし字典連携検索
- ・木簡人名データベース

・墨書き器字典

である。

研究室

複数の科学研究費補助金による研究成果である木簡文字自動認識システム **Mokkanshop** に関するページ。

「**Mokkanshop のご紹介**」にあるように、**Mokkanshop** は、木簡画像解析機能、OCR（光学文字認識）機能、文脈解析支援データベースを備えている。

フォーラム

フォーラムは、登録メンバーによる木簡研究に関する情報交換の場である。

キッズコーナー

子供向けに、よく質問がある点についてわかりやすく解説している。「木簡ってなんだろう」「今も木簡があるの?」「木簡はなぜくさらなかつたの?」から成る。

その他リンク

ここでは、木簡に関するサイトへのリンクを示している。

- ・韓国木簡のデータベース
- ・イギリス・ローマンタブレットのデータベース
- ・正倉院文書データベース

これらのリンク先のサイトを参照することによって、日本の木簡の外延的世界を広く知ることができる。

当然、地域・時代が異なり、文字が書かれている媒体や内容の性格の違いはあるが、木簡との共通点も多くあり、相互に参照することで研究の根拠が広がることが期待される。

遺跡データベース

はじめに

遺跡の一覧を全国的に構成した資料は数が少なく、遺跡の種類を限定しないものとしては、文化庁が都道府県ごとに作成した『全国遺跡地図』が古く唯一のものである。ただこれらは、記述が簡単であることと、現在では手引から時間があつていているという問題があり、継続的で定期的に更新される全国規模の遺跡データベースの作成が必要であった。

遺跡データベースに関しては、『遺跡情報交換標準の研究 第3版』(奈良文化財研究所、2013)の中で詳しく解説されている。そこで、ここでは他のデータベースにない特徴にしぼって記述することとする。

なお、遺跡データベースは、報告書抄録データベースと連携して整備を進めているので、合わせて参照されたい。

ID	名前	位置	種類
1	石造	本堂	石造
2	土造	本堂	土造
3	石垣	本堂	石垣
4	石造	塔頭	石造
5	土造	塔頭	土造
6	石垣	塔頭	石垣
7	石造	境内	石造
8	土造	境内	土造
9	石垣	境内	石垣
10	石造	境内	石造
11	土造	境内	土造
12	石垣	境内	石垣
13	石造	境内	石造
14	土造	境内	土造
15	石垣	境内	石垣
16	石造	境内	石造
17	土造	境内	土造
18	石垣	境内	石垣
19	石造	境内	石造
20	土造	境内	土造
21	石垣	境内	石垣
22	石造	境内	石造
23	土造	境内	土造
24	石垣	境内	石垣
25	石造	境内	石造
26	土造	境内	土造
27	石垣	境内	石垣
28	石造	境内	石造
29	土造	境内	土造
30	石垣	境内	石垣
31	石造	境内	石造
32	土造	境内	土造
33	石垣	境内	石垣
34	石造	境内	石造
35	土造	境内	土造
36	石垣	境内	石垣
37	石造	境内	石造
38	土造	境内	土造
39	石垣	境内	石垣
40	石造	境内	石造
41	土造	境内	土造
42	石垣	境内	石垣
43	石造	境内	石造
44	土造	境内	土造
45	石垣	境内	石垣
46	石造	境内	石造
47	土造	境内	土造
48	石垣	境内	石垣
49	石造	境内	石造
50	土造	境内	土造
51	石垣	境内	石垣
52	石造	境内	石造
53	土造	境内	土造
54	石垣	境内	石垣
55	石造	境内	石造
56	土造	境内	土造
57	石垣	境内	石垣
58	石造	境内	石造
59	土造	境内	土造
60	石垣	境内	石垣
61	石造	境内	石造
62	土造	境内	土造
63	石垣	境内	石垣
64	石造	境内	石造
65	土造	境内	土造
66	石垣	境内	石垣
67	石造	境内	石造
68	土造	境内	土造
69	石垣	境内	石垣
70	石造	境内	石造
71	土造	境内	土造
72	石垣	境内	石垣
73	石造	境内	石造
74	土造	境内	土造
75	石垣	境内	石垣
76	石造	境内	石造
77	土造	境内	土造
78	石垣	境内	石垣
79	石造	境内	石造
80	土造	境内	土造
81	石垣	境内	石垣
82	石造	境内	石造
83	土造	境内	土造
84	石垣	境内	石垣
85	石造	境内	石造
86	土造	境内	土造
87	石垣	境内	石垣
88	石造	境内	石造
89	土造	境内	土造
90	石垣	境内	石垣
91	石造	境内	石造
92	土造	境内	土造
93	石垣	境内	石垣
94	石造	境内	石造
95	土造	境内	土造
96	石垣	境内	石垣
97	石造	境内	石造
98	土造	境内	土造
99	石垣	境内	石垣
100	石造	境内	石造
101	土造	境内	土造
102	石垣	境内	石垣
103	石造	境内	石造
104	土造	境内	土造
105	石垣	境内	石垣
106	石造	境内	石造
107	土造	境内	土造
108	石垣	境内	石垣
109	石造	境内	石造
110	土造	境内	土造
111	石垣	境内	石垣
112	石造	境内	石造
113	土造	境内	土造
114	石垣	境内	石垣
115	石造	境内	石造
116	土造	境内	土造
117	石垣	境内	石垣
118	石造	境内	石造
119	土造	境内	土造
120	石垣	境内	石垣
121	石造	境内	石造
122	土造	境内	土造
123	石垣	境内	石垣
124	石造	境内	石造
125	土造	境内	土造
126	石垣	境内	石垣
127	石造	境内	石造
128	土造	境内	土造
129	石垣	境内	石垣
130	石造	境内	石造
131	土造	境内	土造
132	石垣	境内	石垣
133	石造	境内	石造
134	土造	境内	土造
135	石垣	境内	石垣
136	石造	境内	石造
137	土造	境内	土造
138	石垣	境内	石垣
139	石造	境内	石造
140	土造	境内	土造
141	石垣	境内	石垣
142	石造	境内	石造
143	土造	境内	土造
144	石垣	境内	石垣
145	石造	境内	石造
146	土造	境内	土造
147	石垣	境内	石垣
148	石造	境内	石造
149	土造	境内	土造
150	石垣	境内	石垣
151	石造	境内	石造
152	土造	境内	土造
153	石垣	境内	石垣
154	石造	境内	石造
155	土造	境内	土造
156	石垣	境内	石垣
157	石造	境内	石造
158	土造	境内	土造
159	石垣	境内	石垣
160	石造	境内	石造
161	土造	境内	土造
162	石垣	境内	石垣
163	石造	境内	石造
164	土造	境内	土造
165	石垣	境内	石垣
166	石造	境内	石造
167	土造	境内	土造
168	石垣	境内	石垣
169	石造	境内	石造
170	土造	境内	土造
171	石垣	境内	石垣
172	石造	境内	石造
173	土造	境内	土造
174	石垣	境内	石垣
175	石造	境内	石造
176	土造	境内	土造
177	石垣	境内	石垣
178	石造	境内	石造
179	土造	境内	土造
180	石垣	境内	石垣
181	石造	境内	石造
182	土造	境内	土造
183	石垣	境内	石垣
184	石造	境内	石造
185	土造	境内	土造
186	石垣	境内	石垣
187	石造	境内	石造
188	土造	境内	土造
189	石垣	境内	石垣
190	石造	境内	石造
191	土造	境内	土造
192	石垣	境内	石垣
193	石造	境内	石造
194	土造	境内	土造
195	石垣	境内	石垣
196	石造	境内	石造
197	土造	境内	土造
198	石垣	境内	石垣
199	石造	境内	石造
200	土造	境内	土造
201	石垣	境内	石垣
202	石造	境内	石造
203	土造	境内	土造
204	石垣	境内	石垣
205	石造	境内	石造
206	土造	境内	土造
207	石垣	境内	石垣
208	石造	境内	石造
209	土造	境内	土造
210	石垣	境内	石垣
211	石造	境内	石造
212	土造	境内	土造
213	石垣	境内	石垣
214	石造	境内	石造
215	土造	境内	土造
216	石垣	境内	石垣
217	石造	境内	石造
218	土造	境内	土造
219	石垣	境内	石垣
220	石造	境内	石造
221	土造	境内	土造
222	石垣	境内	石垣
223	石造	境内	石造
224	土造	境内	土造
225	石垣	境内	石垣
226	石造	境内	石造
227	土造	境内	土造
228	石垣	境内	石垣
229	石造	境内	石造
230	土造	境内	土造
231	石垣	境内	石垣
232	石造	境内	石造
233	土造	境内	土造
234	石垣	境内	石垣
235	石造	境内	石造
236	土造	境内	土造
237	石垣	境内	石垣
238	石造	境内	石造
239	土造	境内	土造
240	石垣	境内	石垣
241	石造	境内	石造
242	土造	境内	土造
243	石垣	境内	石垣
244	石造	境内	石造
245	土造	境内	土造
246	石垣	境内	石垣
247	石造	境内	石造
248	土造	境内	土造
249	石垣	境内	石垣
250	石造	境内	石造
251	土造	境内	土造
252	石垣	境内	石垣
253	石造	境内	石造
254	土造	境内	土造
255	石垣	境内	石垣
256	石造	境内	石造
257	土造	境内	土造
258	石垣	境内	石垣
259	石造	境内	石造
260	土造	境内	土造
261	石垣	境内	石垣
262	石造	境内	石造
263	土造	境内	土造
264	石垣	境内	石垣
265	石造	境内	石造
266	土造	境内	土造
267	石垣	境内	石垣
268	石造	境内	石造
269	土造	境内	土造
270	石垣	境内	石垣
271	石造	境内	石造
272	土造	境内	土造
273	石垣	境内	石垣
274	石造	境内	石造
275	土造	境内	土造
276	石垣	境内	石垣
277	石造	境内	石造
278	土造	境内	土造
279	石垣	境内	石垣
280	石造	境内	石造
281	土造	境内	土造
282	石垣	境内	石垣
283	石造	境内	石造
284	土造	境内	土造
285	石垣	境内	石垣
286	石造	境内	石造
287	土造	境内	土造
288	石垣	境内	石垣
289	石造	境内	石造
290	土造	境内	土造
291	石垣	境内	石垣
292	石造	境内	石造
293	土造	境内	土造
294	石垣	境内	石垣
295	石造	境内	石造
296	土造	境内	土造
297	石垣	境内	石垣
298	石造	境内	石造
299	土造	境内	土造
300	石垣	境内	石垣
301	石造	境内	石造
302	土造	境内	土造
303	石垣	境内	石垣
304	石造	境内	石造
305	土造	境内	土造
306	石垣	境内	石垣
307	石造	境内	石造
308	土造	境内	土造
309	石垣	境内	石垣
310	石造	境内	石造
311	土造	境内	土造
312	石垣	境内	石垣
313	石造	境内	石造
314	土造	境内	土造
315	石垣	境内	石垣
316	石造	境内	石造
317	土造	境内	土造
318	石垣	境内	石垣
319	石造	境内	石造
320	土造	境内	土造
321	石垣	境内	石垣
322	石造	境内	石造
323	土造	境内	土造
324	石垣	境内	石垣
325	石造	境内	石造
326	土造	境内	土造
327	石垣	境内	石垣
328	石造	境内	石造
329	土造	境内	土造
330	石垣	境内	石垣
331	石造	境内	石造
332	土造	境内	土造
333	石垣	境内	石垣
334	石造	境内	石造
335	土造	境内	土造
336	石垣	境内	石垣
337	石造	境内	石造
338	土造	境内	土造
339	石垣	境内	石垣
340	石造	境内	石造
341	土造	境内	土造
342	石垣	境内	石垣
343	石造	境内	石造
344	土造	境内	土造
345	石垣	境内	石垣
346	石造	境内	石造
347	土造	境内	土造
348	石垣	境内	石垣
349	石造	境内	石造
350	土造	境内	土造
351	石垣	境内	石垣
352	石造	境内	石造
353	土造	境内	土造
354	石垣	境内	石垣
355	石造	境内	石造
356	土造	境内	土造
357	石垣	境内	石垣
358	石造	境内	石造
359	土造	境内	土造
360	石垣	境内	石垣
361	石造	境内	石造
362	土造	境内	土造
363	石垣	境内	石垣
364	石造	境内	石造
365	土造	境内	土造
366	石垣	境内	石垣
367	石造	境内	石造
368	土造	境内	土造

いる。

ある用語の使用が学会の趣勢となっているか否かを決められる場合であっても、個々の事例すべてについて入力時に検討することは不可能なので、用語の置き換えリストに従った書き換えを行うこととしている。例えば、

ピュリアン、ピュラン、グレイバー、彫刻刀、彫刻刃形石器

→ 彫器

また、古墳に付設された「突出部」に限った用い方として、造りだし、造り出し、造出し、作り出し

→ 造出

といった具合である。

ユニット

遺跡データベースにおいて、遺跡の内容を最も詳しく記載しているのが、【遺構概要】【遺物概要】【発掘概要】【その他概要】の各フィールドである。

【遺構概要】【遺物概要】では、抄録データベースで「ユニット」と呼んでいる記述方法に類した構成での記述方法を採用している。例えば、

町報17(弥生土器(馬内第V様式)+土器(二重口縁部)+須恵器+陶器)主より。

この例では、【その他概要】の中で詳細を記載している典拠となる文献に書かれている遺物情報を、遺物の種類ごとに「+」でつなぎで記述している。

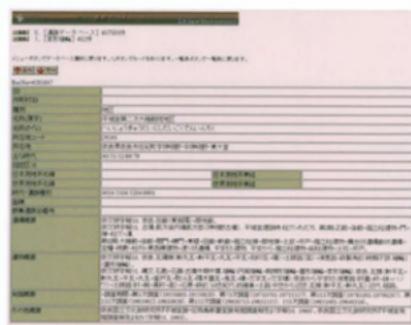


図15 遺跡データベース詳細表示

詳細な記述

遺跡データベースでは、その遺跡に関するできるだけ詳細な情報を提供するようにしている。例をあげると、椿井大塚山古墳のレコードでは、【遺構概要】に696文字、【遺物概要】に1,900文字【その他概要】に1,047文字の説明が入力されている。

ただ、ひとつのレコードに掲載できる情報には限りがあるし、何もかも詰め込みむのでは、必要な情報の相関性が悪くなる。そこで、「個別」のレコードと「調査」のレコードを有機的に組み合わせることで、個々の調査に関する情報を「調査」のレコードに持たせ、まとめに当たる情報を「個別」のレコードに集約する方向でのデータ入力を心掛けている。

例えば、唐古・鍵遺跡は弥生時代研究史上、極めて重要な遺跡で多くの成果が今までに得られているので、調査次回ごとの「調査」のレコードを設けて、それぞれの情報はそこで詳しく記述することを努めている。その一部を示すと、あるひとつの調査について、

【名称(漢訳)】唐古・鍵遺跡 第50次

【遺構概要】町年報4(弥生前期-大溝2+谷1/弥生中期-土坑11+大溝3+小溝5+柱穴+盃棺3/弥生後期-井戸1+小溝2)

【遺物概要】町年報4(弥生土器+ヒスイ製勾玉など)

という記載のレコードを設け、別の調査についてでは、

【名称(漢訳)】唐古・鍵遺跡 第60次

【遺構概要】町年報6(弥生前期-貯蔵穴1(木器)+大溝3/弥生中期-大溝7+小溝2/弥生後期-大溝1/古墳前期-溝/古墳中期-環濠/古墳後期-河川2)。

町概要15(弥生+古墳+中世-溝+河川+土坑)

【遺物概要】町年報6(弥生前期-弥生土器+石器/古墳前期-布留型壺+小形丸底壺+木製舟盤)。

町概要15(弥生土器+土器+須恵器+石器+木器)

と記述している。

古代地方官衙關係遺跡データベース

はじめに

古代地方官衙關跡遺跡データベースは、トップページに説明があるように、「古代（7世紀頃～11世紀頃を対象）の地方官衙遺跡、官衙関跡遺跡、公的遺跡、豪族居宅遺跡など」とされている古代地方官衙關跡遺跡について、その遺跡の所在地・性格・主要な遺構・遺物の種類、報告書などの文献、建物構造などの詳細データを収録したもので、遺跡データ、建物データ、文献データから構成され、それら間に細かくフィールド設定がなっている。

2014年3月現在で、遺跡データ1,646件、建物データ18,561件、文献データ15,708件を収録している。

調査データ

遺跡データは、基本データ、遺跡種別、官衙種別、遺構の部、遺物の部、画像参照からなる。以下、それぞれのフィールドを記す。

基本データとして、

【遺跡ID】【遺跡名】【ルビ】【所在地】【遺跡種類】【地形】【歴史環境】【存続時期】を表示する。

遺跡種別は、【官衙】【官衙廻道】【居宅】【寺院】【集落】【京】
【田園】【生產】【宗】【祭祀】【道】【その他】について有無を表示する。

官衙種別は、【宮】【国有】【郡衙】【郷家】【駅家】【城柵】【山城】【關】【牧】【津】【その他】【未定】について有無を表示する。

遺構の部は、

基部構造について、【掘立柱建物】【礎石建物】【堅穴建物】【その他の基部構造の建物】の有無を表示、

規模について、【大型掘立柱建物】【廻付建物】【大型堅穴建物】の有無を表示。

種類について、【倉庫】【門】【櫓】の有無を表示、

遮蔽施設について、【掘立柱屏・柵】【築地屏】【材木屏】【土壁】

【その他遮蔽施設】の有無を表示、

他の遺構について、【珊瑚礁・藻・塚】【井戸】【工房】について有無を表示する。また、その他の遺構があればそれを表

遺物の部は、【木簡】[墨書・刻書土器]【漆紙文書】[硯・硯台]【施釉陶器】[陶内壺・陶内系土舟容器]【輸入時計器】【大獎】【大量食膳具】【製陶土器】【腰帶具】【仏具】【漆・漆绘製品】【錢袋】
【金銀品生産】【紡織器具】【祭祀具】【武器】【炭化米】について有
趣な点を述べた。レポートは、その他の山の遺物がこれまでにそれを示す。

画像参照として、連携図関係の図面を引用表示できる。図面の引用数は多い。

このように属性別に、ある要素の有無を一覧できるので、内容の正確な把握が容易となっている。

植物データ

凡例に詳しい説明がある。建物データは、基本データ、身舎データ、付帯施設データ、引用文献からなる。

基本データとして次のフィールドがある。

【遺跡名】【遺跡 ID】【遺構番号】【遺構番号注】
【建物 ID】【年代】【遺構期】【建物群の性格】【建物の性格】【建物の性格注】
【基礎構造】【建物形式】【平面形式】【屋根葺材】【屋根葺材注】【土台】【構力面】【剥離物平野記述】【面形式分類】

【桥行間数】 【桥行】 總長 (m) 【面積 (m²)】 【梁行間数】 【梁行】 總長 (m) 【建物面積指数】

【身舍格子間數】【身舍格子總長 (m)】【身舍面積 (m²)】【身舍梁行間數】【身舍梁行總長】

横行柱間 (n) について、【廻の出①】【身合柱間】【廻の出②】

梁行柱間 (m) について、【廻の出①】【身舎柱間】【廻の出②】
【身舎柱行柱間寸法平均値】【身舎梁行柱間寸法平均値】

【平側面の世界】

【總括建物分類】 【^{III}形式分類】 【床東建物分類】

【問仕切分類】 【樹幹枝分類】

基本データ					
店舗名	平成館		店舗ID	a102462	
連絡番号	091800		建物ID	09509	
連絡番号注	朱雀門 16 - 17 - 112-11 - 201 - 211次				
年代	一前国通番所すくら		施設種別		
建物群の性 格	朱雀十二門		屢便柱材質	瓦葺	
建物の性格 注			方位		
屢便柱構造	礎石		棟方向	東西	
建物形式	延柱建物		建物平面形		
平面形式	門		面積分類式		
柱間開閉	5	柱長(m)	25.25	面積(m ²)	255.83
梁間開閉	2	柱長(m)	19.10	建物平面指數	④
身寄柱間開閉	身寄柱行經長(m)				
身寄梁間開閉	身寄柱行經長(m)				
廊の出①	身寄柱間	廊の出②			
柱行柱間(m)	5.05 間隔				
梁行柱間(m)	5.05 間隔				
身寄柱行柱間才手平均幅			平均廊の出率		
身寄梁行柱間才手平均幅					
門式分類	五重門				
メモ	壁面の表面がかなり荒んだ白壁で日差しの明るいに磯石貼り付け穴を複数ある。嵌入式穴に磯石を置きながら丁寧に施設した壁。磯石を嵌入。(K1403)ほか磯石としし込み式に行ったり穴を石片通す				
備考欄	<input type="checkbox"/>				
備考欄2	<input type="checkbox"/>				

図16 作物データ基本データの例（平城宮朱御印）

身舎データは、その建物の構造によって表示されるフィールドが変化する。これは、いたずらに多くのフィールドを表示して煩雑になるのを避けるためである。

礎石建物の場合、礎石という特徴から、

【身舎礎石有無】【身舎根石有無】【身舎礎石形状】【身舎礎石材質】【礎石掘付掘方形状】【身舎礎石基礎地業分類】が表示される。

身舎データ

身舎礎石有無	<input type="radio"/>
身舎根石有無	<input type="radio"/>
身舎礎石形状	自然石
身舎礎石材質	花崗岩
礎石掘付掘方形状	円形
身舎礎石基礎地業分類	ⅡB類（延地業へ壹地業）

図17 建物データ身舎データの例（平城宮朱御門）

また、掘立柱建物の場合、

【身舎横柱筋の通り具合】 【串】

【身舎対向側柱筋の横・具合】 【串】

【身舎柱掘方分類】

身舎柱掘方形状・向き では、向きに関する属性である。

【直行】 【非直行】

【隣柱直行】 【隣柱非直行】 【隣柱横行】 【隣柱面取】

のそれと、形状に関する属性である。

【方】 【長方】 【幅円】 【円】 【不整】 【他】 【L字】

のそれとからなる表を埋める形で内容が示される。

さらに、掘方筋のフィールドとして、

【身舎柱掘方平面規模】 (m) 【身舎柱掘方平面規模中間値】

【身舎柱掘方深さ】 (m) 【身舎柱掘方深さ中間値】

【身舎掘立基礎固め】 【身舎柱取穴分類】 がある。

布振り側筋のフィールドとして、

【身舎布振り平面形状】 【身舎布振り断面形状】

【身舎布振り幅中間値】 【身舎布振り深さ中間値】

その他、【木割】 【身舎柱横筋状遺構】 といったフィールドがある。

これらのフィールドも常にすべてが表示されるのではなく、

身舎データ

身舎横行柱筋の通り具合	その他	串
身舎対向側柱筋の横・具合	その他	串
身舎柱掘方分類	壠(坪)掘り	
身舎柱掘方形状・向き	方 長方 幅円 円 不整 他 L字	
直行		2
非直行		
直行		
隅 非直行		
柱 隅行		
面取		
身舎柱掘方平面規模(m)	0.7	
身舎柱掘方平面規模中間値	0.7	
身舎柱掘方深さ(m)	0.6	
身舎柱掘方深さ中間値	0.6	
身舎柱径(m)	0.4	
身舎柱径中間値	0.4	
木割	9.3	
身舎柱根	遺存	
身舎掘立基礎固め	根石	

図18 建物データ身舎データの例（平城宮朱御門東廄門）

麻がある場合、麻関係のフィールドが表示される。それらは、

【隣行柱筋の通り具合】 【串】

【平側・入側対向側柱筋の横・具合】 【串】

【袖括置】 【袖括方分類】

である。

袖柱掘方形状・向き では、向きに関する属性である。

【直行】 【非直行】

【隣柱直行】 【隣柱非直行】 【隣柱横行】 【隣柱面取】

のそれと、形状に関する属性である。

【方】 【長方】 【幅円】 【円】 【不整】 【他】 【L字】

のそれとからなる表を埋める形で内容が示される。

さらに、他のフィールドとして、

【袖柱横方規模】 【袖柱掘方平面規模】 (m) 【袖柱掘方平面規模中間値】 【袖柱掘方深さ】 (m) 【袖柱掘方深さ中間値】 【袖柱径】 (m)

【袖柱掘立基礎固め】 【袖柱掘方穴分類】 がある。

これらのフィールドも常にすべてが表示されるのではなく、必要なものだけを表示して画面を見やすくする工夫がなされていることは、基本データや身舎データと同じである。

施設データ						
周辺柱行柱筋の通り具合	不明	半				
平側・入側対向側柱筋の崩し具合	不明	半				
周柱配置	柱筋型					
周柱握方分類	空(坪)握り					
周柱握方形状・向き	方	長方	横円	円	不整	他
直行	10					L字
非直行						
直行	3					
陽直行						
柱陽行						
面取						
周柱握方規模	身寄と同規模					
周柱握方平面規模(m)	0.70					
周柱握方平面規模中間値	0.70					
周柱握方深さ(m)	0.50					
周柱握方深さ中間値	0.50					
周柱径(m)	0.30					
周柱径中間値	0.30					
周壁立基礎固め	不明					
周柱抜取穴分類	不明					

図19 建物データ施設データの例 (平成京右京 SB1070)

付帯施設がある場合、付帯施設関係のフィールドが表示される。
付帯施設の種類として、

【屋】【炎硝】【土瘤】【軒支柱】【脚柱】【壁柱】
【足場】【扉・柵】
【総地業】【基礎】【附壁】【雨落溝】【清】
【その他】【未定】

について、有無が表示される。

それぞれの要素ごとに特定のフィールドが用意されている場合があり、それらは次の通りである。

縁	【縁の分類】
裳階	例数が少ないので留欄のフィールドなし
土瘤	例数が少ないので留欄のフィールドなし
軒支柱	外周柱としてのフィールド
壁柱	例数が少ないので留欄のフィールドなし
足場	【足場分類】 ほか、外周柱、付帯柱としてのフィールドあり
扉・柵	外周柱として、また付帯柱としてのフィールドあり
総地業	【総地業長(m)】【総地業幅(m)】【総地業面積(m ²)】 【総地業深さ(m)】【総地業版染有無】
基礎	【基礎築成】【基礎外装】 【基礎長(m)】【基礎幅(m)】【基礎面積(m ²)】

【基礎高(m)】【基礎の出】【基礎版染有無】
階段 【階段の出】【脚柱位置】【階段築成】
雨落溝、溝 【溝位置】【溝護材質】
【溝幅(m)】【溝深さ(m)】【軒の出・雨落溝距離】
外周柱に当たる場合のフィールドとして、
【外周柱穴列位置】【外周柱穴列注】がある。
付帯柱に当たる場合のフィールドとして、
【付帯柱配置】【付帯柱穴規格】がある。
また、【メモ】フィールドがあり、グループ分けできない情報などについて記述している。

付帯施設データ

付帯施設の種類

縁	<input type="checkbox"/>	裳階	<input type="checkbox"/>	土瘤	<input type="checkbox"/>
軒支柱	<input type="checkbox"/>	脚・柵	<input type="checkbox"/>	壁柱	<input type="checkbox"/>
足場	<input checked="" type="radio"/>	基壇	<input type="radio"/>	階段	<input type="checkbox"/>
総地業	<input type="checkbox"/>	溝	<input type="checkbox"/>	未定	<input type="checkbox"/>
雨落溝	<input type="checkbox"/>	その他	<input type="checkbox"/>		

足場分類

外周柱穴列位置	Ⅱ類(柱四方型)
総地業長(m)	全面
総地業幅(m)	31.3
総地業面積(m ²)	16.6
総地業深さ(m)	529.54
総地業版染有無	1.5~1.6
基壇築成	有り
基壇外装	盛土基壇
基壇増幅	増正積か
基壇長(m)	(33.25)
基壇幅(m)	(10.10)
基壇面積(m ²)	601.925
基壇高(m)	(1.33)
基壇の出	(4)
基壇版筑有無	有り

メモ

足場SS14040は柱の四方を包む型、SS14000・14010・14020・14030は基壇を取り囲み、門と柱筋をそろそろ。柱二本を組にし、間に板を渡したものか。追橋としては確認出来ないが、おそらく増正積み基壇で階段は底0.9尺の5段(高さ4.5尺)と推定。

図20 建物データ付帯施設データの例 (平城宮朱雀門跡)

引用文献について、

【文献ID】【著者名】【書名・雑誌名】【発行所】【発行年】が示される。

用語の範囲

建物関係のフィールドにおいては、検索時に検索語をリストか

ら選択が形で指定するようになっている。

基本データでは、

【基礎構造】

「掘立」「礎石」「掘立・礎石併用」「その他」から選択もしくは、指定しない。

【建物形式】

「側柱建物」「総柱建物」「床束建物」「側柱・総柱併用」「側柱・床束併用」「回廊」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【建物平面形】

「方形」「平行四辺形」「直角台形」「台形」「不整形」「多角形」「その他」から選択、もしくは指定しない。

【平面形式】

「無隔」「四面廻」「三面廻」「二面廻」「片廻」「下廻」「門」「総柱（高木倉庫）」「総柱（底木張り建物）」「総柱（高木倉庫か低床張りか不明）」「横闇」「権」「扉か否かなど不明」「回廊・軒廻」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【屋根構材】

「瓦葺」「非瓦葺」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【面形式分類】

「片面（平側）」「片面（妻側）」「二面（平側）」「二面（妻側）」「二面（L字全面）」「二面（L字隅欠き）」「三面（平+両妻）」「三面（両平+妻）」「三面（平+両妻の隅欠き）」「三面（両平+妻の隅欠き）」「四面（全廻）」「四面（隅欠き）」「部分」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【総柱技物分類】

「内外柱穴同規模」「内部柱穴小規模（側通し柱）」「全体小規模（50cm以下・非専用）」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【門形式分類】

「二本柱（揃門・冠木門など）」「三本柱（2間）」「4本柱」「4本柱（裏回門）」「四脚門」「八脚門」「八脚門（変則）」「五間門」「五間門（変則）」「7間門」「鳥居」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【床束建物分類】

「IA類（柱筋交点型、添束無し）」「IB類（柱筋交点型、妻側添束有り）」「IC類（柱筋交点型、平側添束有り）」「ID類（柱筋交点型、妻・平側添束有り）」「IIA類（梁行柱筋型、梁行3間棟通り）」「IB類（梁行柱筋型、妻側柱中間通り）」「III類（梁行柱筋型）」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【間仕切分類】

「IA類（2間棟通り型）」「IB類（3間筋行柱筋型）」「II類（3間非柱筋型）」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【樹幹分類】

「屋外独立樹幹」「屋内樹幹」「近傍樹幹」「野生樹幹」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。となっている。

一方、【桁行間数】や【桁行総長(m)】といった数値が入るフィールドでは、範囲指定を行うことができる。

身舎データでは、

【身舎桁行柱筋の通り具合率】【身舎布振り幅中間値】【身舎柱径中間値】といった数値が入るフィールドでは、範囲指定を行うことができる一方、属性値を選択するフィールドでは以下のように、選択式となっている。

【身舎柱幅方分類】

「壺（坪）掘り」「布振り」「壺・布併用」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【身舎布振り平面形状】

「帶型（桁行一部のみ）」「帶型（梁行一部のみ）」「帶型（桁行平行）」「帶型（梁行平行）」「帶型（桁行・梁行混在）」「長方形型（二柱穴連続）」「ロの字型」「L字型（3柱穴連続）」「L字型（多柱穴連続）」「コの字型」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【身舎布振り断面形状】

「I類（単純布振り）」「II類（段振り+壺振り）」「III類（布振り+壺振り）」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【身舎掘立基礎品目】

「礎板」「地下式礎石」「根石」「腕木・貫」「根巻石」「地中梁」「その他」「特になし」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【身舎柱抜取穴分類】

「抜取穴無し」「一部のみ抜取有り」「柱筋方向」「柱筋直交方向」「柱周開」「不定方向」「その他」「切取穴」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【身舎柱筋割状態】

「ロの字形」「2穴直列」「多穴直列」「3穴字形」「多穴L字形」「その他」から選択、もしくは指定しない。

【身舎礎石形状】

「自然石」「削石」「一部挖形」「切石」「柱底加工（凸）」「柱底加工（凹）」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【身舎礎石材質】

「未定」「塊天岩」「花崗岩」「砂岩」「その他」から選択、もし

くは指定しない。

【礎石据付拡大形状】

「不明」「なし」「方形」「円形」「不規則・方形」「布掘り」「長方形」「その他」から選択、もしくは指定しない。

【身合礎石基礎地盤分類】

「IB 類（無し）」「IA 類（盛土基壇のみ、掘込地盤なし）」「IC 類（純地盤）」「IIA 類（盛地盤のみ）」「IIB 類（純地盤+壠地盤）」「IC 類（壠地盤+基礎荷成）」「IIIA 類（布地盤のみ）」「IIIB 類（純地盤+布地盤）」「IVA 類（純地盤（基礎）一円丘盛土）」「IVB 類（純地盤（基礎）一壠地盤一円丘盛土）」「VA 類（純地盤+壠地盤）」「VC 類（布地盤+壠地盤）」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

データベースであると言える。

詳細なフィールド設定は、資料体を精緻に比較検討するのに適しているが、それだけにデータ入力のための資料調査と調整に多大な時間がかかるっている。

府データにおいても、

【前柱行柱筋の通り具合率】【前柱掘方深さ中間値】といった数値が入るフィールドでは、範囲指定を行って検索できる。一方、属性値を選択するフィールドでは以下のように、選択式となっている。

【前柱掘方分類】

「壠（坪）掘り」「布掘り」「壠・布併用」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【前柱掘方規模】

「身合と同規模」「身合よりやや小規模」「身合の1/2以下」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

付帯施設データでは、付帯施設の種類是有無を選択する形となっている。属性値として純粋面積を選択するのは、

【付帯柱配置】

「柱筋型」「柱間中央型」「柱筋・柱間中央型」「不規則型」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

【付帯柱穴規模】

「身合と同規模」「身合よりやや小規模」「身合の1/2以下」「その他」「不明」から選択、もしくは指定しない。

構成の特性

古代地方官衙関係遺跡データベースでは、官衙課税系調査の研究を進めるために、建物構造の詳細な分析を可能とするような、極めて精緻なフィールドの構成、用語の吟味と統制を行っている。

データベースのフィールド設定には、細かく項目立てていく方向性とざっくりとひとくくりにする方向性がある。このデータベースは、細かく項目立て行く方向性でのひとつの中点を示す

古代寺院遺跡データベース

はじめに

古代寺院遺跡データベースは、トップページにあるように、「古代（7世紀頃～11世紀頃を対象）の寺跡とされている遺跡について、その遺跡の所在地・性格・主要な構造・遺物の種類、報告書などの文献、建物構造などの詳細データを収録したもので」、遺跡データ、建物データ、文献データから構成され、それぞれに細かなフィールド設定になっている。古代地方官衙関係遺跡データベース（以下、官衙のデータベース）と同様の構造である。

2014年3月現在で、遺跡データ1,266件、建物データ2,844件、文献データ13,982件となっている。

遺跡データ

遺跡データは、基本データ、遺構の部、遺物の部、画像参照からなり、官衙のデータベースにある「遺跡別」と「官衙種別」に関する一群のフィールドは設定されていない。

基本データと遺構の部はそれぞれ、官衙のデータベースと同じフィールド構造である。遺物の部については、官衙のデータベースと同じ構成に、【頃道具】についての有無を示すフィールドが加付っている。

画像参照については、官衙のデータベースと同じフィールド構造である。

図21 古代寺院遺跡データベース遺跡データ

建物データ

建物データは、官衙のデータベースと同じ構造をしている。これは、官衙と考えられる構造も寺院と考えられる構造も、同時代の比較的大規模な建物を対象としているという共通性もあり、同じ視点で検索して比較・検討できるようになっている。

図22 古代寺院遺跡データベース建物データ

文献データ

文献データは、官衙のデータベースと同じ構造である。

構成の特性

このように古代寺院遺跡データベースは、古代地方官衙関係遺跡データベースと合わせて利用することで、よりその情報を活かすことができるようになっている。

建物基盤の規模が大きかつたり配置が規則的であった時に、ただちに官衙関係遺跡なのか、寺院遺跡なのかを決定できない場合もあるので、ほぼ同一のフィールド構成で対比できる利点は大きいであろう。

官衙遺跡整備状況データベース

はじめに

官衙遺跡整備状況データベースは、『埋蔵文化財ニュース 111 官衙遺跡整備状況』(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター、2003)で公表したデータをデータベース化したものである。原資料は凡例にあるように、「全国の官殿・官衙および関係遺跡のうち、すでに整備されたもの、あるいは現在整備中のものについて、その具体的な状況をアンケートにより収集し、収録したもの」で、データベースは、冊子体刊行後にも、改訂を行っている。

フィールド構成

フィールド構成は次の通りである。

【レコード識別記号】

【都道府県名】

【遺跡名称】

【所在地】

【指定区分】

【指定年月日】

【指定名称】

【所有者（管理者）】

【遺跡の概要】

【整備対象面積】

【整備期間】

【整備事業の概要】

【復元財物の概要】

【防災設備設置状況】

【ガイダンス施設などの設置状況】

【整備の実効性区分、全体整備で心がけた点】

【整備で検討・工夫した点：（他の整備事例などと異なる点など）】

【検討工夫したため苦労した点：（材料補闕・施工上など）】

【整備で生じた問題点：（学術上・管理上など）】

【活用上実施しているイベントなど】

【管理運営上抱えている現在の問題点・今後の問題点】

【持続管理】

【開催修理費】

【来場者又は入館者数】

【整備後の見学者の反応】

【当該施設保存整備関連文献：（発掘調査報告書を除く）】

【コメント】



図23 官衙遺跡整備状況データベースの詳細画面

また、冊子体におけるデータベース版との特徴として、いくつもの説明について画像が斜め付されていて、整備状況が理解しやすいようになっている。

記述の特徴

このデータベースは、各フィールドの記載内容が文章記述となっているものが多く、全件に1レコードの説明が詳しく文字数が多いデータとなっている。このため、フィールド指定・非指定を問わず、全文検索機能を活用することで、冊子体では特に探すのに時間がかかる情報でも効率的にアクセスが可能となっている。

フィールドを指定しない検索では、全フィールドが対象となるので、データベース中のどこに記述されているか、事前の判断がつかないような内容であっても容易に検索可能である。

遺跡の斜面保護データベース

はじめに

遺跡の斜面保護データベースは、『理藏文化財ニュース 119 官道跡の斜面保護 遺跡の保存工学的研究』(奈良文化財研究所理藏文化財センター、2006)で公表したデータをデータベース化したものである。

埋蔵文化財ニュースには、個別事例の資料だけではなく、まとめてある記事も掲載されているので、データベースを公開するにあたりそれらのページの内容も参照できるようにしている。

フィールド構成

フィールド構成は次の通りである。

【レコード識別記号】

【遺跡名】

【所在地】

【斜面の分類】

【斜面の概要】

【施行年月】

【対策工種】

【工事概要】

【特記事項】

【事業主体】

【事業目的】

【遺跡概要】

【評価】

各レコードに、数点ずつの画像を添付している。

遺跡の斜面保護データベース		
このデータベースは、官道跡の斜面保護に関するデータを収集・蓄積するためのもので、主に斜面保護工事を実施した、その工事に適応する方針・着手年・施工者等の情報を記載しています。また、斜面保護工事の実施状況を示す写真を複数枚添付してあります。また、斜面保護工事の実施状況を示す写真を複数枚添付してあります。		
このデータベースは、官道跡の斜面保護に関するデータを収集・蓄積するためのもので、主に斜面保護工事を実施した、その工事に適応する方針・着手年・施工者等の情報を記載しています。また、斜面保護工事の実施状況を示す写真を複数枚添付してあります。また、斜面保護工事の実施状況を示す写真を複数枚添付してあります。		
このデータベースは、官道跡の斜面保護に関するデータを収集・蓄積するためのもので、主に斜面保護工事を実施した、その工事に適応する方針・着手年・施工者等の情報を記載しています。また、斜面保護工事の実施状況を示す写真を複数枚添付してあります。また、斜面保護工事の実施状況を示す写真を複数枚添付してあります。		
登録情報	詳細	操作
1	斜面保護工事	新規登録、削除
2	上斜面土質改良工事	(00000000)
3	上斜面土質改良工事(電子化済み) (0000012)	
4	下斜面土質改良工事	

図24 遺跡の斜面保護データベース詳細画面の例

記述の特徴

工事の説明についての記述は長くなることもある。例えば、名越町通ごくつては、全体で3,225文字に及ぶデータが記載されている。このため遺跡の斜面保護工事に用いられた薬剤名での検索などに、データベースが提供している全文検索機能が役に立つと考えられる。

今後に向けて

このデータベースは現在のところ、レコード数がごくわずかである。

整備事業は個別の作業ごとの差異が大きいとも考えられるが、工法ごとに比較したりといったデータベースや電子化された資料ならではの機能によって、工事の計画立案に資することができる。

発掘庭園データベース

はじめに

廻転の構造にも今まで遺存しているものと、埋もれてしまつて発掘調査で発見されるものがある。発掘調査によって発見された廻転を集成したものが、発掘調査データベースである。

2014年3月現在、338件が登録されている。

フィールド構成

詳細画面で表示されるフィールドは、以下の通りである。

図25 発振回路データベース詳細画面

このデータベースでは、表示されているフィールド以外のフィールドも検査対象とすることが可能である。検査対象となるフィールドは、検査画面でフィールド指定することでわかる。それは、

【底部名称】

【名称読み】

【二一下游】

【所在地】

- 【所有者】
- 【管理者】
- 【指定種別】
- 【指定種別2】
- 【指定名称】
- 【指定面積(m²)】
- 【指定年月】
- 【追加指定等】
- 【現状】
- 【免振調査件名】
- 【参考文献】
- 【繪面資料】
- 【史料】
- 【免振調査報告書】
- 【免振調査履歴】
- 【免振調査年度】
- 【復元整備】
- 【様式】
- 【遺構概要】
- 【構成要素】
- 【立地】
- 【沿革】
- 【築造時期】
- 【築造時期コード】
- 【築造世紀】
- 【築造初期】
- 【築造絶世紀】
- 【性格】
- 【遺跡種別】
- 【所在】
- 【地図番号】
- 【旧コード番号】

検索の対象となるフィールドとして、例えば【名称読み】が含まれているので、フィールドを指定しない検索において、読みを入力することで該当するデータをヒットさせることも可能である。

記述の特徴

【選択範囲】【様式】【構成要素】といったフィールドでは、入力している用語についての標準化が図られている。

Archaeologically Excavated Japanese Gardens

はじめに

発掘庭園データベースを英語化したものが、このデータベースである。内容だけではなく、ボタンなどの部品も英語化されている。

フィールドの構成

詳細画面で表示されるフィールドの英語版と日本語版との対照は次の通りである。ただし、表示される順番は英語版と日本語版では異なっている。

【code】	【コード番号】
【name】	【庭園名称】
【address】	【所在地】
【category】	【遺跡種別】
【style】	【様式】
【age】	【築造時期】
【century】	【築造世紀】
【elements】	【構成要素】
【excavation years】	【発掘調査年度】
【excavation organization】	【発掘調査機関】

The screenshot shows a detailed record for a garden. At the top, there's a header with the title 'National Research Institute for Cultural Properties, Agency for Natural Resources and Environmental Techniques, National Institute for Cultural Properties' and a URL 'http://www.nich.go.jp/nich/en/'). Below the header, there are two tabs: 'Basic' (selected) and 'Detailed'. The main area displays the following data:

Record Number	0. [partied] 338 data 515
You can go back to the previous database page by clicking on the 'Master' button. To see the next or previous page of other records use the 'Up' or 'Down' buttons. You can go back to the first records page by clicking on the '1st' or 'last' records button.	
Address	Nara City, Nara Prefecture
Code	29000
Style	stone garden
Name	palace garden at Block 4, East Second Ward on Third Street, Nara capital site
Elements	streams (stone paved), ornamental stones, rock island, pots for water plants, wooden conduit for water supply, drainage wooden conduit/flow
Age	Nara period
Category	palace
Excavation years	1973, 1977, 1979
Excavation organization	Nara National Cultural Properties Research Institute
Country	Japan

Below this, there's a section for 'Pictures' with four numbered entries (1, 2, 3, 4) each with a small thumbnail image.

図26 発掘庭園データベース英語版

図26は、日本語版の発掘庭園データベースで示したもの(図25)と同じ構造を示す。日本語版と英語版が完全に対応していることが分かる。

多言語対応について追記

多言語化についての考え方については、木簡字典のところでも述べた。

木簡字典は4か種語対応であるものの、多言語化されているのは、文字、図のタイトル、フィールドの名称等であって、データの中身そのものは、日本語のみであった。

対するに、発掘庭園データベースと Archaeologically Excavated Japanese Gardens は、2か種語の対応であるが、中身も含めて翻訳されている点が大きく異なる。これは、データの性質の差によるところが大きい。

図25と図26にあげたレコードの内容を比較すると、

century/築造世紀 8th/8世紀

のように、容易に対応できるものだけではなく、

address/所在地

Nara City, Nara Prefecture/奈良県奈良市三条大路一丁目

のような、対応付けもなされている。

さらに、

elements/構成要素

stream (stone paved), ornamental stones, rock island, pots for water plants, wooden conduit for water supply, drainage wooden conduit/流れ
(石敷)・景石・岩島・水生植物植樹・導水木桶・排水木通
では、英語の対応も正確にとられている。構語の翻訳にあたっては川越の翻訳ではその内容を伝えられない、このために次に述べる辞典が用意されている。

Japanese Garden Dictionary

はじめに

発掘庭園データベースの英語版として Archaeologically Excavated Japanese Gardens を提供するだけでは、利用者が使いやすいとは言えない。日本の庭園の構成要素などに関する用語の知識が必要である。

こういった要望に応えるため、『ONO Kenkichi and Walter EDWARDS 英対照日本庭園用語辞典 = Bilingual [Japanese & English] dictionary of Japanese garden terms』を元に作成されたのが、この Japanese Garden Dictionary であり、見出し語数は669語である。

構成

この辞典には、英訳された用語の ABC順による索引と、用語の日本語読みをローマ字表記した時のABC順による索引」という、ふたつの索引が用意されている。

The screenshot shows the English索引 (Index) page of the Japanese Garden Dictionary. It features a header with 'English index', 'Japanese index', and 'Home' links. Below is a table with three columns: ENGLISH ENTRY TITLE, KANJI/KANA, and ROMANIZATION. The table lists various Japanese garden terms with their English definitions. At the bottom, there is a footer with 'Japanese Garden Dictionary A Glossary for Japanese Gardens and Their History (C) 2010 by Ono Kenkichi and Walter Edwards. All rights reserved.'

ENGLISH ENTRY TITLE	KANJI/KANA	ROMANIZATION
abbot's quarters	方丈	ōjō
approving lantern	許可燈	seigoku-dōrō
azalea	杜若	tsutsuji
azalea bed	杜若床	tsutsuji-tegami
Amanohashidate	天橋立	Amanohashidate
Amida hall	阿弥陀堂	Amida-dō
angular fish basin	鯛形手水鉢	tarōchō chōzubachi
ashita	足場	ashita-sashi
ascended bridge	仄石橋	tsuzuki-hashi
ascended stone bridge	仄石橋	tsuzuki-hashi
ashing stone	硯石	shingōishi
stone pattern screen fence	壁面地圖	yōrōga egorō
artificial hill	築山	takayama

図27 日本国庭園用語辞典英語索引

日本の庭園に関する用語は、英語に訳されただけではその内容を十分に理解することはできないので、用語の解説が必要となる。ひとつの例を図29に掲げる。

この「造水」の例でわかるように、電子版の特性を活かして、関連項目（この場合「寝殿造庭園」と「作庭記」）へのリンクが張られているので、リンクをたどりながら、次々と関連する情報を得ることができるようにになっている。

The screenshot shows the English索引 (Index) page of the Japanese Garden Dictionary. It includes a header with 'English index', 'Japanese index', and 'Home' links. Below is a table with three columns: JAPANESE, KANJI/KANA, and ENGLISH. The entry for 'yarimizu' is highlighted with a red box. The entry details a narrow and shallow winding stream made in the garden. At the bottom, there is a footer with 'Japanese Garden Dictionary A Glossary for Japanese Gardens and Their History (C) 2010 by Ono Kenkichi and Walter Edwards. All rights reserved.'

JAPANESE	KANJI/KANA	ENGLISH
やりみず	yarimizu	narrow and shallow winding stream
合掌	合掌	stone joint
利生	利生	double-trunked tree; pea-planting method
氷津和平安屋敷	氷津和平安屋敷	garden at the detached mansion of the Matsudaira family, lords of the Aizu domain
縁代垣	縁代垣	diagonal mat fence
赤玉石	赤玉石	red stone
あわ	あわ	aku well
氷津	氷津	Aizuto Rōrō
Amanohashidate	天橋立	Amanohashidate
阿弥陀堂	阿弥陀堂	Amida hall
あわせ門	あわせ門	straw hat gate
相撲形手水鉢	相撲形手水鉢	angular fish basin

図28 日本国庭園用語辞典日本語索引

The screenshot shows a detailed entry for 'yarimizu' in the Japanese Garden Dictionary. It includes a header with 'English index', 'Japanese index', and 'Home' links. The entry for 'yarimizu' is highlighted with a red box. Below the entry, there is a note about its use in Heian period gardens and a link to 'Sakuteiki'. At the bottom, there is a footer with 'Japanese Garden Dictionary A Glossary for Japanese Gardens and Their History (C) 2010 by Ono Kenkichi and Walter Edwards. All rights reserved.'

図29 日本国庭園用語辞典用語説明の例

いくつかの項目では、図も添えられていて理解を助けるようになっている。

所蔵図書データベース

はじめに

奈良文化財研究所は20万点を超える図書を収蔵している。これらは、調査研究業務において参考図書として用いるためのものである。所蔵図書の中には、遺跡の発掘調査報告書や建築物の修理報告書のように、発行部数が少なく他の図書館等で入手困難してしまったもののが多数含まれている。そこで蔵書を一般に公開して専門家の研究のみならず、広く一般の方々の要望にも答えることとしている。

所蔵の有無を調べるにあたっては、図書資料室に来て目録を検索するのでは、目的の図書がなかった時に無駄足となるなど効率が悪い。このため、インターネットを通じて所蔵図書データを公開しているのが、所蔵図書データベースである。

検索の実際

検索画面を選択すると、図 30 のような検索条件入力画面となる。

図30 所蔵図書データベース検索条件入力画面

所蔵図書のデータベースとして通有な、書誌情報と所蔵情報を得ることができる。検索では、最初にヒットした本の一覧が表示される。

図31 所蔵図書データベース検索結果一覧

次に、ひとつの本を選ぶことによって、それに関する詳細な情報が得られる。

図32 所蔵図書データベース検索結果詳細

実際の利用にあたっては、奈良文化財研究所での図書が平城地区、藤原京地区、飛鳥資料館の3か所に分かれて収蔵されていること、各の特徴を理解して活用すべきだと思ふ。

報告書抄録データベース

はじめに

発掘調査報告書は、遺跡に関する情報を最も多く収録するとともに、多くの場合、唯一のそして最終的な情報源でもある。近年、発掘調査の件数は年間 8,000 件あまりとなっており（『埋蔵文化財ニュース 157 号』（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター、2014））、年間に発行される発掘調査報告書の数は 1,800 冊から 2,000 冊に達している。

しかし、発掘調査報告書は発行部数が少ないとあって、唯一にして最大の情報源でありながら、利用しやすい状況にあるとは言えない。また、全体では年間 20 万ページほどという情報量に達しており、誰もその全体像を把握することができない状態になっている。

このため、発掘調査報告書に各々の内容を簡潔にまとめた付録を添付することで、記載内容が把握できるように図られている。そして、この付録の検索が容易となるように、データベース化と公開を進めているのが報告書付録データベースである。このデータベースの作成にあたっては、都道府県教育委員会や歴史法人の埋蔵文化財センターから協力を得ている。

開発の経緯については、遺跡データベースと同じく、『遺跡情報交換標準の研究 第3版』(奈良文化財研究所、2013)を参照されたい。

検索の実際

検索の結果得られる一覧表示は図33のようなイメージである。

図33 報告書データベース一覧画面

ここで、左端の欄をクリックすることにより、各レコードそれぞれの詳細情報を見ることができます。



図34 報告書登録データベース詳細画面

このデータベースにおいては、1レコードは、発掘調査報告書に記載されている、ひとつひとつの調査単位である。従って1冊の報告書が、複数レコードに分解されて登録されることも多い。

ユニットの考え方について

フィールド個々についてでは、前掲書に詳しいので、ここでは説明を省略し、情報記載のために作られたユニットという記載単位について述べる。

【遺産概要】では、内容の表現のために、「種別」「時代」「遺構」「遺物」の4つの部分を基本の一組として設定し、これをユニットと呼んでいる。また、各部分は属性、それぞれの内容を要素として示す。

例として、ある遊艇についての記述を、ユニットの切れ目ごとに改行して示す。

集落-古石器-石器集中4-砾群2-ナイフ形石器ほか/集落-縄文早期-竪穴3+炉穴9+落とし穴11+土坑2-縄文土器(井草式・芽山式)/集落-縄文前期-土坑1-縄文土器(黒泥式)/集落-縄文中期-竪穴建物67+落とし穴1+屋外埋設10+集石土坑4+土坑165+ピット-縄文土器(勝坂II式から加賀原III式)-石器(石鏃・磨製石斧・打製石斧・磨石・敲石・石皿・石棒)/集落-縄文後期-縄文土器(称名寺式・堤之内式)/集落-古代-竪穴建物1-須恵器+土師器・鉄器/集落-中世から近世-井戸1+土坑2+段切り2+ピット列16+溝54+土器・陶器器・骨質土器・瓦質土器・砥石・錢貨

となる。

このように、種別が異なるか、時代が異なれば、別のユニットとして記載していくことによって、理解しやすい表現を目指している。

時代区分をどこまで細かくとるのは難しい問題である。細分すればいいというものでもないが、そうかと言つてあまり大まかなくなりとなることも望ましくない。それぞれの遺跡の特徴に基づいて判断すべきである。

検索に適した記述

報告書抄録データベースでは、検索で必要な情報に到達することができるよう北山の仕方に工夫を施している。

先の例にもあるが、縄文土器の型式名の表示方法を統一している。

縄文土器（黒浜式）

としているのは、「黒浜式土器」と記述すると、縄文土器であるのかどうかが一般の人には分かりづらいからである。また、検索によって、縄文土器が出土している遺跡の数を数えることを可能とするという目的もある。「黒浜式土器」という書き方ではこのような概括的な検索を行うことができない。

データの記述に使用する文字にも注意を払っている。これには、考古学上の用字の問題だけではなく、Windowsでの文字コード割り当てに起因する問題もある。いざれも詳細は、『遺跡情報交換標準の研究 第3版』を参照されたい。

展望

抄録データの中には、発掘調査報告書の編集機関に関する情報、報告書の書誌情報、そして個別の調査に関する情報という3種類の情報が入っている。本来であれば、これらは、3つの表の組み合わせとしてデータベース化されるべきと考えられるが、抄録データベースではひとつの表として処理している。データの正規化という観点からは、さらなる改良が求められる。

そして、現行の抄録データベースが、「調査」(あるいは、調査に関する報告)を、ひとつレコードとして組み立てられているものである以上、その他のまとまりを単位とするデータの整備が求められる。

「遺跡」を単位とする情報は、遺跡データベースの充実によつて提供されるべきである。

報告書抄録データベースの改良によって、「報告書」1冊ずつを単位とした情報の整理を進めるとともに、発掘調査の調査機関、発掘調査報告書の編集機関に関する情報も整備すべきである。機関に関するデータベースは、個々の機関の制定を進めて、名称や所在地等の変遷を正しく追跡できることが求められる。

発掘調査報告書の情報については、抄録だけではなく、報告されている情報全体へのアクセスが求められている。冊子体の報告書を閲覧するには、奈良文化財研究所所蔵のものについては、所蔵図書データベースを有効利用することで実現可能ではある。とは言え、通常他の方には簡単なことではなく、情報の再利用や活用は容易ではない。

今後、報告書をpdfファイル化して閲覧を簡単にすることが求められる。さらには、報告書に記載されている内容に対して、全文テキスト検索等が実現することが望ましいあり方だと考える。

薬師寺典籍文書データベース

はじめに

奈良文化財研究所所長、南部の寺院が所蔵している書跡資料の調査研究を長年に渡り継続して行っている。薬師寺にも、多くの典籍や文書等が伝わっている。調査研究は現在も継続中であるが、これまでの成果の一冊として書誌的なデータをデータベース化して利用に供しているのが、薬師寺典籍文書データベースである。

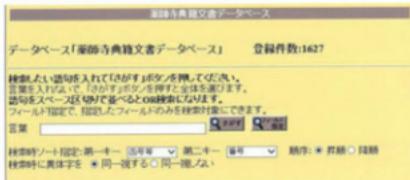


図35 薬師寺典籍文書データベース導入画面

フィールド構成

詳細画面で提供しているフィールドは、

【件名等】

【番号】

【小番号等】

【小番号等2】

【史料名】

【版本】

【日付】

【西暦】

【員数】

【書写年代】

【装帧・形状】

【次撰】

【抨紙】

【法量 (mm)】

【法量 (mm)】

【紙数】

【備考】

から成る。



図36 薬師寺典籍文書データベース一覧画面

いづれのフィールドを対象にしてもフィールド指定検索が可能であり、細かな条件を組み合わせて指定できるようになっていく。



図37 薬師寺典籍文書データベース詳細画面

【装帧・形状】【料紙】といった外形的な情報による網羅的な検索は、電子的なデータベースが得意なところである。また、【史料名】のようなフィールドでは、名称の一部しかわからない場合でも、全文検索の機能を活かして検索できることも、データベースならではの活用方法であると考える。

大宮家文書データベース

はじめに

奈良市春日野町にある氷室神社大宮家には多くの典籍や文書等が伝わっている。その歴史的な情報について、奈良文化研究所と奈良市教育委員会が共同で調査した成果は、『奈良市歴史資料調査報告書(23) 大宮家文書目録(成卷文書)』(奈良市教育委員会、2007)として公刊されている。

このデータベースは、冊子体で刊行した調査研究成果をデータベース化して供するものである。

トップページには利用上に注意事項が掲げられているので、参考照されたい。



図38 大宮家文書データベース一覧画面

フィールド構成

詳細画面で提供しているフィールドは、

- 【所蔵者】
- 【文書群】
- 【函号等】
- 【番号】
- 【小番号等】 【小番号等2】
- 【史料名】
- 【版本】
- 【日付】
- 【西暦】
- 【員額】
- 【書写年代】
- 【筆者】
- 【形態類別】
- 【次脚】

【料紙】

【紙背書】

【印記】

【界線】

【一行字数】

【行数】

【本文に関する事項】

【調点】

【表紙形態】

【輪】

【法量(幅)】 【法量(高)】

【界高】 【界幅】

【紙微】

【その他】

【題】

【表紙等】

【端裏書等】

【首部】 【尾部】

【差出】 【充列】

【上書等】 【庚書等】

【備考】

【地名等】

【目録】 【頁】

からなり、詳しい情報を提供している。

図39 大宮家文書データベース詳細画面

フィールド指定検索ではどのフィールドを指定することも可能であり、細かな条件指定を行う検索機能を実現している。

平城京出土陶硯データベース

はじめに

平城宮跡・平城跡からは、焼き物の硯が数多く出土している。これらを集成した資料集が、

『平城京出土陶硯集成 I 平城宮跡』(奈良文化財研究所史料第77集、奈良文化財研究所、2006)

『平城京出土陶硯集成 II 平城京・寺院』(奈良文化財研究所史料第80集、奈良文化財研究所、2007)

として刊行されている。その内容をデータベース化したものが、平城京出土陶硯データベースである。

2014年3月現在のレコード数は1,092件である。

フィールド構成

検索可能なフィールドは、

【報告書番号】

【次級】

【出土地点】

【地区】

【出土日】

【連携番号】

【遺構】

【層】

【硯形式】

【法量】

【焼成（窯跡）】

【備考】

【概報・報告】

【PL、PH】

【写真年度】

【写真種別】

と、一連の写真番号である。それぞれについて、包含検索、先頭一致検索、完全一致検索が可能である。

図40 陶硯データベース一覧画面

検索結果は、16件ずつ一覧表示され、サムネイル画像と共に示される。このうちの1件を選択すると、詳細な情報を得ることができる。

図41 陶硯データベース詳細画面

詳細画面では1点ごとに、詳しい写真が添付されている。冊子版とは異なり、文字データと画像データを一覧しながら検討する事が可能となっている。

学術情報リポジトリ

はじめに

奈良文化財研究所学術情報リポジトリは、奈良文化財研究所が発行した報告書等について、論文といった単位ごとにpdf化した文章を提供するものである。

内容詳細

公開している資料では、それぞれに単位について、

【タイトル】

【その他のタイトル】(英文タイトルなど)

【著者】

【キーワード】

【発行日】

【出版者】

【引用】

【ISSN】

といった情報も提供している。

現在提供している資料の種類は、

- ・奈良文化財研究所概要
- ・奈良文化財研究所研究
- ・奈良文化財研究所史料
- ・奈良文化財研究所研究報告
- ・平城宮発掘調査出土木簡概報
- ・飛鳥南宮発掘調査出土木簡概報
- ・現地説明会資料
- ・企画展資料
- ・記者免表資料
- ・奈文研ニュース

である。

ただ、各種別において、まだまだ未公開の資料が多い状態であり、公開に向けての作業を継続している。



図42 奈良文化財研究所学術情報リポジトリ、タイトル画面

展望

今後、飛鳥資料館雑誌や講演会資料といった他の資料についても公開を進める予定である。

オンラインでの全文データの提供は、資料に対する検索の面で、冊子体では実現できない柔軟性を提供できる。しかし、冊子体の資料にも、パソコンやインターネット接続といった道具立てを必要としない点や、情報を簡単に一覧できる点などの利点も多い。今後とも、これらふたつの情報公開の手法が相互に補完しつつ進展するように努めたい。